

ぐりふぁん letter



Vol.
39
2020.2

INDEX

- ◆ 2030年までの10年が人類の未来を決める！～C O P 25の結果と課題～ . . . 2
- ◆ 気候危機に危機感を持ってください . . . 3
- ◆ 第11回市民・地域共同発電所全国フォーラムを開催 . . . 4
- ◆ 広がる市民共同発電所～奈良、大阪からの報告
蓄電池付きの市民共同発電所ができました！
やっと箕面保育園屋上に太陽光発電施設が設置されました！
- ◆ きょうとグリーンファンド20周年 . . . 6
- ◆ 会員さん こんにちは！
おひさまプロジェクトは今
編集後記 . . . 7

認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

2030年までの10年が人類の未来を決める!~COP25の結果と課題~

地球環境市民会議(CASA)専務理事

早川 光俊

昨年12月、スペインのマドリードで、気候変動枠組条約第25回締約国会議（COP25）が開催されました。

2015年のCOP21で合意されたパリ協定は、いよいよ今年2020年から始動します。パリ協定は、先進国だけでなく、途上国を含めたすべての国が削減目標や削減行動を持ち、工業化（1850年頃）以前からの平均気温の上昇を2℃未満に維持することを目的とし、1.5℃未満に抑制することを努力目標としています。

しかし、現在の各国の削減目標を積み上げても、1.5℃未満はもちろん、2℃未満にも遠く及ばないことが明らかになっています。

そのためCOP25は、各国に対し、現在国連に提出している排出削減目標を引き上げを促す明確なシグナルを発信することができるかどうか最大の課題でした。同時に、2018年のCOP24において、パリ協定の実施ルールの大枠は合意されましたが、合意できずCOP25に先送りになっていた「市場メカニズム」「各国の削減目標の共通の期間」「透明性報告フォーマット」などのルールに合意することも課題になっていました。

●COP25の評価

COP25決定書には、「現在の削減目標とパリ協定の目標との間の大きなギャップを埋めることの緊急性を、重大な関心をもって再度強調する」とか、「目標を引き上げる緊急性を強調する」などの表現はありますが、その表現は極めて弱く、削減目標の引き上げに対し、明確なシグナルを発信することができませんでした。グテーレス国連事務総長が、COP25の結果に対し「失望した」と言ったのは、このことを指しています。こうした結果になってしまったのは、中国、アメリカ、ロシア、インド、日本などの、温室効果ガスの5大排出国が、目標の引き上げに消極的な態度を崩さなかったからです。

また、COP25に先送りになっていた、「市場メカニズム」、「各国の削減目標の共通の期間」、「透明性報告フォーマット」などの残されたパリ協定の実施ルールについても、合意ができずにCOP26に先送りになってしまいました。ただ、これらの実施ルールについては、合意できないとパリ協定が実施できないという性格のものではなく、「市場メカニズム」などで「抜け穴」になるようなルールで合意するより、慎重に議論を重ね、実質的に温室効果ガスが削減できる制度に合意することが重要です。

●日本は二度の化石賞

日本は、2050年実質ゼロも、削減目標の引き上げも、国内の石炭火力のフェーズアウト（漸減）や海外の石炭火力への資金供与の停止も約束できず、世界から大きな非難を浴び、2回の化石賞を受賞しました。小泉環境大臣は、しきりに日本国内でも対策が進んでいるとアピールしていましたが、日本政府が石炭火力についての現在の政策を抜本的に変えない限り、何をしても、何を言っても、受け入れられないことを自覚すべきです。



日本に2回目の「化石賞」

●活発に活動した世界の若者たち

グレタ・トゥーンベリさんを先頭に、世界の若者たちが、これまでのCOPでは見られなかったような活発な活動したことは、COP25の大きな特徴でした。12月6日の金曜日には、若者たちの呼びかけで、マーチが取り組まれ、50万人がマドリードの中心街を埋めました。マーチだけでなく、COP25の会場の内外で、若者たちが、気候変動対策の強化を求めて、活発に活動していました。

●2030年までの10年が人類の未来を決める

いよいよパリ協定は実施の段階に入ります。グレタさんは、2020年からの10年が「私たちの未来を決める10年」と言います。日本を含め各国が、この10年にパリ協定の目的に沿った行動をするかどうか、人類の未来がかかっています。



気候危機に危機感を持ってください

Fridays for Future Kyoto

塚本 悠平

気候危機は「今」「ここ」で起きている

気候危機は、どこか遠い国・未来の話ですか？ COP25の会議場でドイツのNGOジャーマン・ウォッチが、「世界気候リスクインデックス2020」を発表し、日本にとって衝撃の結果が記されていました。なんと、2018年に最も気候変動による被害を受けた国が、日本だったのです。2018年に日本で起きた気候関連災害による死者は1282人、経済損失は358億3934万米ドル（GDPの0.64%に相当）。日本は既に、気候変動を加速する加害国であるだけでなく、気候変動の影響をモロに受ける被害国でもあるのです。

気候危機に立ち向かう日本の若者

日本は特に気候変動の被害を受けているという事実を、日本の若者はどのように受け止めているのでしょうか。スウェーデンの気候活動家グレタさんのスクールストライキを契機に始まった、世界的な若者による気候ムーブメントである、Fridays for Futureの参加者数から考えていきましょう。2018年3月から11月まで、世界同日開催の気候マーチが、Fridays for Futureによって隔月で実施されました。日本では、3月は2都府で200人、5月は微増し、9月のマーチでは23都府県で計5,000人が参加しました。数字としては、回を重ねるごとに伸びてきていることが分かります。

気候危機をジブンゴトに

しかし欧米や豪州では、数10万人規模でのマーチが実施されており、日本の参加者数は決して多くありません。参加者数だけで見ると、気候危機への関心の度合いに大きな差が見て取れます。様々な原因が考えられる中、その一つが、気候危機をジブンゴトに出来ているかどうかだと考えます。当然、政府や自治体の気候政策が不十分であることや、環境教育が日本全体に浸透していないことは、気候危機への関心の有無に大きく関わる要素でしょう。ただ、ジブンゴトで無い物事に対して、誰が関心を持ち、取り組めるのでしょうか？

ジブンゴトにするための考え方①

どうすればジブンゴトにできるのか。若者だけでなく、全世代で考えてみましょう。まずは、気候変動の影響予測を知ること。特に、信頼のおける情報源（IPCC報告書や査読付き論文等）やそれらを分かりやすく伝える機関（通信社・新聞社・NGOのHPやSNS等）から情報を取ることが肝要です。温暖化にまつわる言説は溢れかえっているため、慎重な姿勢を取りましょう。

このままのペースで化石燃料を使い続け、気温上昇が進むことで、台風・洪水・熱波等の気候変動災害が頻発・強大化すると、国連気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が警告を鳴らし続けています。甚大な災害が増える未来に生きるのは自分であり、将来生まれてくる子供たちだということを、想像してみてください。きっと不安になると思います。それが、ジブンゴトとして捉える、ということではないでしょうか。

ジブンゴトにするための考え方②

次に、自分の行動が気候変動の原因となることを認識すること。それは即ち、自分の行動が、自分や子供、孫の生活を危険な状態にし得ることを認識することです。気候変動を引き起こす最大の原因の一つは、二酸化炭素を排出することです。自分の行動を見回してみると、気候変動との繋がりが見えてきます。例えば使っている電気や、資産運用などが考えられます。自分の使っている電気は、二酸化炭素の大排出源である化石燃料でなく、自然エネルギーから作られていますか？預金・投資している金融機関は、自然エネルギー普及に貢献しており、化石燃料から脱却するためのアセットマネジメントを行っていますか？

自らの行動を二酸化炭素排出源という観点から振り返ると、気候変動との繋がりが浮き彫りになってきます。繋がりが見えたところで、行動に移さない人が多いかもしれません。そんな時は、考え方①で示したように想像力を働かせ、未来への責任を感じてください。そうすれば、行動を後押ししてくれるでしょう。

危機感の先へ

ジブンゴトとして捉えることは、あくまで気候変動対策の氷山の一角です。むしろ入り口だと思います。その入り口に立ったら、次のステップを考えてみてはいかがでしょうか。Fridays for Future主催のマーチに参加してメディアの注目を集めること。仕事場が契約している電力小売事業者を切り替えること。気候変動対策を促進する研究や仕事に取り組む。気候変動対策に熱心な政治家を応援する。枚挙にいとまがありません。関心を持ち、危機感を抱き、行動する。簡単なようで、難しいです。しかし、気候危機は待った無しどころか、既に私達の足下で起きています。気候危機を乗り越えた先に待つ安全な未来に思いを馳せながら、急いで行動に移しませんか？



第11回市民・地域共同発電所全国フォーラムを開催

認定NPO法人おかやまエネルギーの未来を考える会 廣本 悦子

11月1～3日、西日本で初めてとなる「第11回市民・地域共同発電所全国フォーラム」を岡山で開催しました。3日間を通して全国各地から延べ414名が参加され、盛況のうちに終わることができました。準備や当日運営にあたっては、県内外の多くの団体からサポートをしていただきました。心から感謝申し上げます。

1) プログラム内容

1日目に分科会2つとポスターセッション、懇親会を行いました。2日目は午前に分科会2つと午後は全体会、3日目は希望者による西粟倉村へのエクスカーションを行いました。

パネラー・コーディネーターは市民共同発電所や資金調達・地域新電力の実践者、国や自治体の職員、大学教授など各分野で先進的な活動されている総勢26名でした。これだけの方々が岡山で一堂に会し、再生可能エネルギーの導入拡大について討論や意見交流されるのは初めてのことでした。

2) 分科会のテーマと登壇者

◆分科会1: みんなが知りたい、これからの市民・地域共同発電所のつくり方!

井上保子さん、大西啓子さん、山崎求博さん、富岡弘典さん、助言・和田武さん、進行・田浦健朗さん

◆分科会2: 再生可能エネルギーは電力自由化を生き抜けるか

竹村英明さん、安田陽さん、吉田明子さん、熊野千恵美さん、進行・手塚智子さん

◆分科会3: 若者とこれからの再エネの話をしよう!

塚本悠平さん、畑田郁華さん、石原達也さん、柏原拓史さん、井筒耕平さん、進行・中平徹也さん

◆分科会4: 再生可能エネルギーのためのお金の作り方、回し方

谷口彰さん、古里圭史さん、深尾昌峰さん、進行・浅輪剛博さん

FITの売電価格が下がった中での発電所づくりや資金調達のノウハウ、自由化で見えてきた電力システム改革の問題点、地域新電力に立ちはだかる壁など、今、直面しているさまざまな課題について聞き応えのある議論がなされました。2019年の夏も台風が関東、東北に甚大な被害をもたらし、会場には気候変動は「気候非常事態」、再エネ100%の社会を目指すことが重要という熱い思いが満ち満ちていました。

3) 全体会

2日目午後の全体会では共催である岡山市の大森市長による歓迎挨拶の後、実行委員長の山陽学園大学の白井信雄さんによる基調講演「再生可能エネルギーと持続可能な地域づくりについて」がありました。ついで中島恵理さん、杉山範子さん、本多真さん、上山隆浩さんの4人による活動紹介とディスカッションが行われました。最後に、自然エネルギーによって「持続可能な地域社会」への移行を進めていくことや国へ1.5度目標達成のための温室効果ガス削減目標と自然エネルギー導入目標の設定を求めるとなどのアピール文を採択し、閉会となりました。



4) 西粟倉村へのエクスカーション(11月3日)

3日目は希望者43名(うち4名は現地集合)とスタッフ4名がバス1台で岡山駅西口を出発、西粟倉へ向かいました。県外からの参加者は西粟倉行きを希望された方が多く、早々と定員に達したためお断りした方も多おられました。

西粟倉の「道の駅あわくらんど」で村役場の上山隆浩さんと合流、バスに乗車してもらい、レクチャーを受けながら小水力発電の取水現場や小水力発電所、温泉の薪ボイラー、地域熱供給の現場等を見て回りました。現在、村が整備しているのが「地域熱供給システム」です。建て直す村庁舎や図書館、子ども館、中学校、小学校、福祉施設等へ熱導管を敷設し、チップボイラーで作った熱を各施設へ送り、暖房や給湯に利用するという仕組みです。また、防災・減災施設には太陽光パネルと蓄電池、LED照明を設置している他、将来的には小型バイオマス発電所を設置し、災害時には自立運転で最低限の熱と電力が供給できるよう電気の自営線を通す計画です。これからの数年で西粟倉はさらに飛躍しそうです。



参加者は、日本で地域熱供給はできないと聞いたが、西粟倉では実際にやってお礼を受けただ、大変満足そうでした。参加者の多くは実践や講師活動をされているような人たちなので、帰りの車中も盛り上がり、感想や意見を出し合っているうちに岡山駅へ到着しました。



広がる市民共同発電所

～ 奈良、大阪からの報告

蓄電池付きの市民共同発電所ができました！

NPO法人サークルおてんとさん 理事長 清水 順子

奈良市西の京で障がい者福祉に長年取り組んでこられた NPO 法人かかしの会と共に、市民共同発電所（太陽電池 6.25kW、蓄電池 5.6kWh、総事業費 283 万円）づくりを進め、2019 年 12 月 15 日に完成を祝う会（点灯式）を開催しました。サークルおてんとさんとしては 7 つ目の市民共同発電所、奈良市市民共同発電所補助事業としては 2 か所目となります。この事業は、私が代表を務める一般社団法人地域未来エネルギー奈良が奈良市に提案し実現したものです。

おてんとさんでは、3 月からかかしの会と話し合いを重ね、再エネ協同基金、奈良ストップ温暖化の会にも声をかけプロジェクトを進めてきました。

「祝う会」では、仲川げん奈良市長、地元自治連合会会長や県担当課や奈良市、県地球温暖化防止活動推進センター長、寄付者や施設利用者とその保護者、スタッフなど 84 名が参加しました。施設利用者の「がらく隊」の楽器演奏やおてんとさんの「マンモスくんと地球くん」のペープサート上演もあり、なごやかな会となりました。太陽光発電で貯めた蓄電池の点灯スイッチを 5 人で入れるとクリスマスツリーの電球に明かりが灯り、歓声が上がりました。

異常気象が頻発する中で、障害を抱える人たちを少しでも災害から守れるようにしたいと、施設長の小野加代子さんは蓄電池と太陽光発電のシステムを渴望しておられました。地下シェルターや 2 階からの脱出用滑り台まで設置されている共同生活援助事業所は、市指定の福祉避難所にもなっています。今後、この施設は、福祉・防災・環境、そして地域コミュニティの場になることと思います。



やっと箕面保育園屋上に太陽光発電施設が設置されました！

NPO市民共同発電みのお 金谷邦夫

大阪でも少しずつ市民団体が設置する太陽光発電施設が増えてきています。私たち大阪府箕面市でも 2015 年から保育園屋上に太陽光発電を設置する動きがあったのですが、その時は見送られました。2017 年に再度設置の話が持ち上がり、18 年度の大阪府の補助金 94.5 万円と市民 50 人以上の寄付、協力金と、再エネ工房さんの全面的な協力で 9.95 kW の設備の設置が箕面保育園屋上で実現しました。昨年 2 月 23 日に園児も参加して、点灯式を行いました。また 11 月 6 日に園児を対象に環境教育も行われ、環境腹話術での「地球のお熱を下げよう」の話には園児も集中し、最期は総立ちで見入っていました。

設置現場は周囲に高い建物がなく、日照条件も非常によく、順調に発電が進み、電力会社より少し安い額で、保育園で利用してもらっています。

今後、「市民共同発電みのお」では、設置価格の低下を見越して、これまで足を踏み出せなかった一般家庭に働きかけて、災害非常時の電源確保も兼ねて広げていく働きかけをしていこうと考えています。



きょうとグリーンファンド20周年

2000年から活動をはじめたきょうとグリーンファンドは、今年20周年を迎えます。

そこで、設立当時から支えていただいた会員・理事の方に当時は振り返りつつ、きょうとグリーンファンドへの思いを寄せていただきました。

きょうとグリーンファンド 理事 小坂 勝弥

ぐりふぁんの20年をふりかえるということで、設立当時のことを思い出してみたいと思います。

きっかけとなったのは先行事例として北海道グリーンファンドの鈴木亨さんをお迎えしてお話を聞いたことでした。集まったのは「若狭の原発を案ずる京都府民」「グリーン・アクション」など若狭湾の原発を不安視し、防災の視点から京都府への要望行動などをいっしょに行っていたメンバーたちです。有り体にいうと、元気なおばちゃんたちが集まったという方がイメージしやすいかもしれません。

共通する思いは、私たち、反原発を訴えてるけど、運動の流れは反対型より提案型の方が求められてるし、何か対案になる行動を呼びかけたいねえ・・というものでした。北海道GFさんの取り組みは画期的で、みんなが小さな力を集めて、節電を推進すると同時に、再生可能エネルギーを普及させるという3つがセットになっているのが魅力的でした。

しかし、それなりの規模と組織力があって初めて可能となるものだったので、思いしかない徒手空拳の私たちにはとても同じように真似できるものではありません。そんな中、私たちにも可能な形でということで暗中模索が繰り返され、現在のぐりふぁんのスタイルが確立されきたのかと思います。

何年かのうちに一基でも実現したらいいねえ・・と思っていたものが、一年に一基を超えるペースで設置できてきたことは、私にとっては当初の想像を遥かに超えるものです。一方で、太陽光パネルをとりまく環境もずいぶん変わりました。当時とは違い、今では多少ゆとりのある世帯なら導入しようというインセンティブが様々な存在するようになりました。

ぐりふぁんの会員数が頭打ちになっている背景にはこういった変化も大きいと思います。魅力あるぐりふぁんでありつづけるために、何かいい知恵はないものかと思案する今日この頃です。

きょうとグリーンファンド 理事 沖 由憲

「きょうとグリーンファンド」の活動が今年で20周年を迎えるとのこと、誠におめでとうございます。太陽光発電の普及を進め、これを教材にした環境教育プログラムを展開し、環境に配慮する人材の育成に奮闘されてきた会員等関係者の皆様に対し、心から敬意を表します。

私と当ファンドとを結ぶ楽しい思い出が二つあります。

一つは、「おひさま発電所」です。2001年、多くの方から寄付を受け、第1号が「法然院・森のセンター」に開設されました。私も寄付の形で参加し、可愛いカードをいただきました。環境にいいことをした気分になり、その後もできる限り協力していきたいなと思いました。

もう一つは、「グリーン電力証書」です。私がエコロジーセンターから市役所に戻った2007年頃から、おひさま発電所とタイアップした京都独自のグリーン電力証書制度の試行・創設に関わりました。広報発表時の記者や事業者に対し、自然エネルギーが持つ環境付加価値に着目したこの制度の説明には、結構苦勞しました。「京都・花灯路」が第1号となり、ほっとした思い出があります。自慢話になりますが、この制度のロゴマークには私のアイデアが入っています。

最後に、当ファンドが、太陽光発電の普及活動のすそ野を一層広げ、持続可能な社会の実現に寄与していくことを願っています。私は理事として日は浅いですが、当ファンドの活動を少しでもお手伝いできたらと思っています。

太陽光発電設備今昔物語

・・・ 森 哲也 さん

普段は設備の維持保全に関する仕事をしています。特に電気設備担当ということもあり、電気使用量の削減は、経費対策の面とも重なって日々頭を悩ませる課題となっています。業務としてエネルギー管理と向き合う一方、個人で楽しみながら自然に参加できる活動を探していた時「おひさま発電所」と出会い参加させていただきました。

約20年前、教育施策の一環として一部の学校に太陽光発電設備が予算化された時期があり「技術面から考えても本当に採算がとれるのかな」「発電設備としては高額。どこまで教育用設備として活用できるのかな」と疑問に思いながら設置に関係したことを、今でも記憶しています。時期を過ぎると予算を配分する方も、経済的要素ばかりに意識が向いてきたのか「子どもたちの省エネ意識向上を目指す目的で設置する」と言っても費用対効果を理由に予算が配分されない時期もあって、当時の教育現場担当者が嘆いていたことも今となっては懐かしい思い出です。今や太陽光発電設備は発電能力の向上、低価格化が進んで身近な設備となりました。一般家庭に普及している時代です。しかし身近になりすぎて「電気代を抑える設備」「緊急時にも役立つ設備」という点ばかりが強調され、環境負荷低減に大きく寄与している設備という点が弱くなってきているようにも思います。地球温暖化の影響が日々強まってきている今、太陽光発電設備という身近な設備をみんなで一緒に作りつつ環境問題を考えていく活動は、とても重要であり、将来を担う子供達にもきっと良い経験になると思います。これからも微力ではありますが、自らも楽しみつつ活動に参加させていただければと思っています。



おひさまプロジェクトは今

2019年1月完成の安朱保育園おひさま発電所から1年、設置施設を募集中でしたが、このほど、次の施設が決まりました。

奈良市とは言え、山里の風情を残す地にある古民家「あ・うんハウス」です。日本文化に惚れ込んだオランダ人と日本のアーティストのご夫婦が住んでおられます。そこを拠点として、地域興しのさまざまなプランを描いておられました。少し離れた場所に地ビールの工房も計画中。過疎の地域にどんな風が吹くのか、お話をうかがって、おひさま発電所づくりは、地域興しの先陣を切る計画となるように思えました。

引き続き、設置施設は現在も募集中。温暖化の影響が顕著な今、災害時の自立電源確保の観点からも、地域の施設におひさま発電所は、標準仕様になってもらいたいです。避難所になっている学校に、準避難施設となる保育園や幼稚園に、高齢者の施設に、障がいを持っている方々の福祉避難所に、と必要な施設はいろいろ。みなさんの身近な施設を、是非ご紹介ください。

きょうとグリーンファンド発足から20年、温暖化の進行はあまりにも早く、その影響は予想以上に深刻ですが、法然院の共生堂に1号機が完成した時の手ごたえは、今も鮮明です。わたしたちの活動は、多くの人の協力が形となること。再エネへの思いは、必ず次の世代に受け継がれていくものと思います。

(きょうとグリーンファンド 大西 啓子)

編集後記

- ・事務局会議に定期的に出席させていただくようになり約10ヶ月がたちました。その中で、いろいろな気づきがありました。特に環境教育活動の活動について、その重要性を再認識しました。(K.M)
- ・ダボス会議での飲み物は、すべてリユースびんでしたね。ペットボトルのリサイクルで、「やることはやっている…」と胸を張っている某大企業の社長さん、そりゃあ、若い人から叱られますよ(K.O)
- ・この冬は、カメムシが多くて、お米や野菜の被害が出ているようでした。これも温暖化のせい？ちなみにハーブ系の臭いが嫌いのようです。(Y.F)
- ・グリファンにぐりにゃん、ぐりわんのパペットが仲間入りしました。子どもたちにも大人気、これからの活躍が楽しみです。(T.Y)
- ・夏に十年以上使用していたエアコンを買い換えました。猛暑でフル稼働してましたが、電気料金は前年の約25%削減しました。家電メーカーの技術革新はすごいですね。(Y.M)
- ・「関電や原発再稼働推進の大阪ガスから電力会社を切替てください！」「やる！やる！」と言いながら何故か手続きしてくれない。まず出来る「脱原発行動」です。みなさん！邪魔くさがらずに手続きしてください。(T.H)
- ・“最悪の場合、地球はあと12年” 衝撃的な IPCC の報告。人間にとって残された時間は、これまで考えていたよりもずっと短い。このままでは…どんな事態になるのか、考えただけでも…(S.K)

《 ぐりふあん日誌 》

(2019)

- | | |
|---|---|
| 7/13 自然エネルギー学校・京都2019第2回／京エネセンター | 10/29 環境腹話術／陵ヶ岡こども園 |
| 7/25 環境腹話術、見学会／みょうりんえん | 10/30 自然観察会(大宮保育園)／府立植物園
ヒアリガ(台湾主婦連盟環境保護基金会) |
| 7/27 自然エネルギー学校・京都2019第3回／京エネセンター
夏の夜市／村山公園 | 11/1 市民・地域共同発電所全国フォーラムin岡山事例報告
／岡山県庁ホール |
| 8/28 株式会社中川パナソニック訪問 | 11/7 おひさまプロジェクト打ち合わせ／吉川商店 |
| 7/30 環境腹話術／向島保育園 | 11/9 自然観察会(陵ヶ岡こども園)／天智天皇陵 |
| 7/31 ゆいまあるグループホーム訪問 | 11/12 マルビアン茅葺テヒアリガ／京丹波町 |
| 8/9 京都府地球温暖化防止活動センター連絡調整会議出席 | 11/19 第127回理事会 |
| 8/17 上鳥羽エネ体験イベント参加／上鳥羽北部いきせ | 11/22 自然エネルギー学校検討会議出席／気候ネットワ |
| 8/24 自然エネルギー学校・京都2019第4回／京エネセンター | 11/29 グローバル気候マčin京都参加 |
| 9/7 脱原発か「新電力に切り替えよう」講師／
使い捨て時代を考える会 | 12/1 KGPN地産地消マčin向島参加 |
| 9/14 自然エネルギー学校・京都2019第5回／京エネセンター | 12/11 ヒアリガ(龍谷大学 齋藤ゼミ) |
| 9/20 グローバル気候マčin京都参加 | 12/16 エネ学区省エネ学習会参加／上鳥羽北部いきせ |
| 9/26 KGPN幹事会出席 | 12/21 市縁堂2019出展／ひとまち交流館 京都 |
| 10/8 マルビアン茅葺テ現地調査・ヒアリガ／京丹波町 | 〈2020〉 |
| 10/18 自然観察会(つくし保育園)／京都御苑 | 1/15 労務専門家相談／京都市市民活動総合センター |
| 10/19・20 気候市民ネット2019参加／龍谷大学 | 1/20 あ・うんハウス現地調査・ヒアリガ／奈良市 |
| 10/23 ヒアリガ／認定NPO法人シズ | 1/21 第128回理事会 |
| | 1/23 KGPN幹事会出席 |

□ 寄付のお願い

きょうとグリーンファンドの活動はみなさまの寄付によって
ささえられています。

おひさま基金へのご寄付はゆうちょ振替をご利用下さい。

ゆうちょ銀行振替口座番号:00930-6-157817
加入者名:きょうとグリーンファンド

★2015年4月1日付で京都市から認定NPO法人として再認定されました。
認定NPO法人への寄付は、税法上の特別措置の対象になります。

会員数 67

正会員 38 賛助会員 24

法人会員 5 2020/2現在



認定特定非営利活動法人(認定NPO法人)

きょうとグリーンファンド

〒600-8191 京都市下京区五条高倉角塚町21 事務機のウエダビル206
TEL/FAX ; 075-352-9150 E-mail ; info@kyoto-gf.org
URL ; http://www.kyoto-gf.org (火～金 13:00～17:00)

